

ノンポリ教師の半生
—二つの世界に身を置く、という生き方でストレスも解消—

十代田知三

◎ まえがき

◎ Part 1 大学人という“身すぎ”世界

大学人の責務—四本柱：教育・研究・管理運理・社会活動

(1) 教育をめぐる

マスプロ時勢への対処：少人数への工夫→ノルマ増、実験重視→同じプログラムを16回、44年間休講なし←意地の理由、六学闘争—建築工学科・解放戦線、バリスト—助講助会結成一団交、電気設備学科（夜間部）設立—移籍、入試無競争のため社会人を含む多様な入学生→やりがいを感じず、定年まで。十代田研究室のOB会“ジャリの会”—心のよりどころ。

(2) 教育のための研究

コンクリート、ローテク研究から“ロマン”テク研究へ、社会問題から研究テーマ：工事検査の形骸化→検査方法の開発・提唱、一匹狼の遠吠え、昭和50年欠陥生コン事件の前年に品質低下を憂慮する論考を発表、コンクリートのキャラクター化→異方構造の検証、コンクリートの文化性

(3) 社会活動—教育へ反映

生涯学習センターの理念、学会での交流、東京都試験機関、裁判所調停員、設計実務、現場調査、歴史的建物の保存

(4) 管理運営—最も嫌いな仕事

理事9年間→(1)を優先、大学院・学部・学科の新設、等

◎ Part 2 伝統芸能という“遊び”の世界

(1) Avatar（分身）のすすめ

ペンネーム、雅号、俳名、芸名、等・・・：私は花垣幸四郎（長唄）：別世界で、ひととの交流も広まる。

(2) 「人生という布を、タテ糸（仕事）とヨコ糸（趣味）で織り上げる」

(3) 趣味というより芸道修業

一対一でなく、できるだけ広い組織のなかで競う。

(4) 中学生の受けたカルチャーショック：六代目尾上菊五郎の舞台

(5) 17歳のとき、早大長唄研究会へ。3ヵ月で初舞台（唄方）。以後、現在までOBとして70年間続ける。他大学—慶應、明治、東京女子大、東大、等と競う。合同も。他にいくつか同好会をつくる。

◎ Part 3 （時間があれば）余生を地域のなかで

(1) 一遍と遊行寺

高野修先生と遊行フォーラム、説教節、遊行かぶき、新しい交流の輪の広がり

(2) 鵜沼の緑と景観を守る会

(3) 藤沢長唄連盟→（改称）湘南長唄同好会

(4) 〈東京〉でNPO “木造建築文化総合センター” コンクリート→木造

完